

羽地ダム右岸道路(その10)工事

【施策の概要】

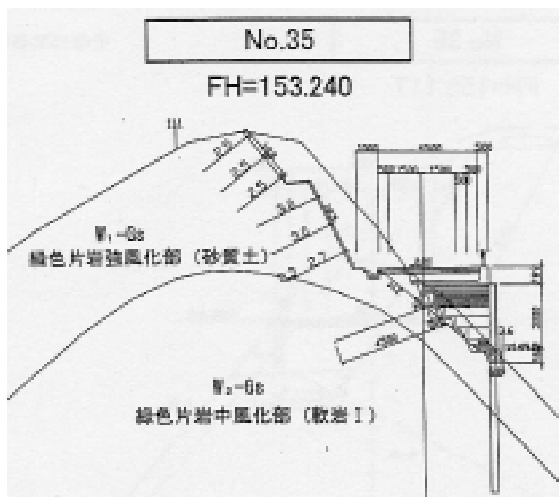
当初設計は、軽量盛土（EPS工法）重力式擁壁で設計されていたが、用地内で道路線形の見直しを行い、施工段階での地質精査の結果、擁壁部の地盤の許容支持力が期待できることから、軽量盛土（EPS工法）を経済的に有利なプレキャストL型擁壁及び鋼製補強土壁へ設計を見直した。また、法面保護においても、現場打ち法枠工をプレキャスト法枠に変更することにより、コスト縮減を図りました。

【施策のポイント】

- ・ 施工段階での地質精査により道路構造物の構造変更が可能な事が判明し、調査費、修正設計費を考慮してもコスト縮減が図れる事となった。
- ・ プレキャスト擁壁を使用することにより、管理の行き届いた工場において製作するため、コンクリート構造物の品質確保が図られます。
- ・ コンクリート構造物を現場打ち施工からプレキャスト化することにより、これまで人力主体の施工形態からトラッククレーンなどの機械化施工となり、効率的な施工が可能となります。
- ・ これにより、本工事において当初の施工に比べ、約29%の工事コストの縮減が図られました。

【施策の実施状況・イメージ図】

EPS工法
(発泡スチロールによる軽量盛土)



鋼製補強土壁

